

島根県では、島根原子力発電所から放出される温排水の環境への影響を調査するため、発電所周辺の海域で水温分布等の調査を実施しています。

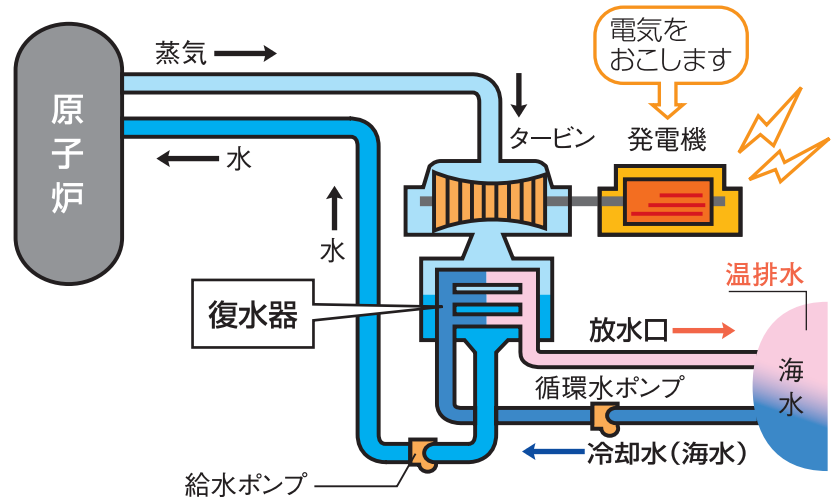
おんはいすい

● 温排水とは？

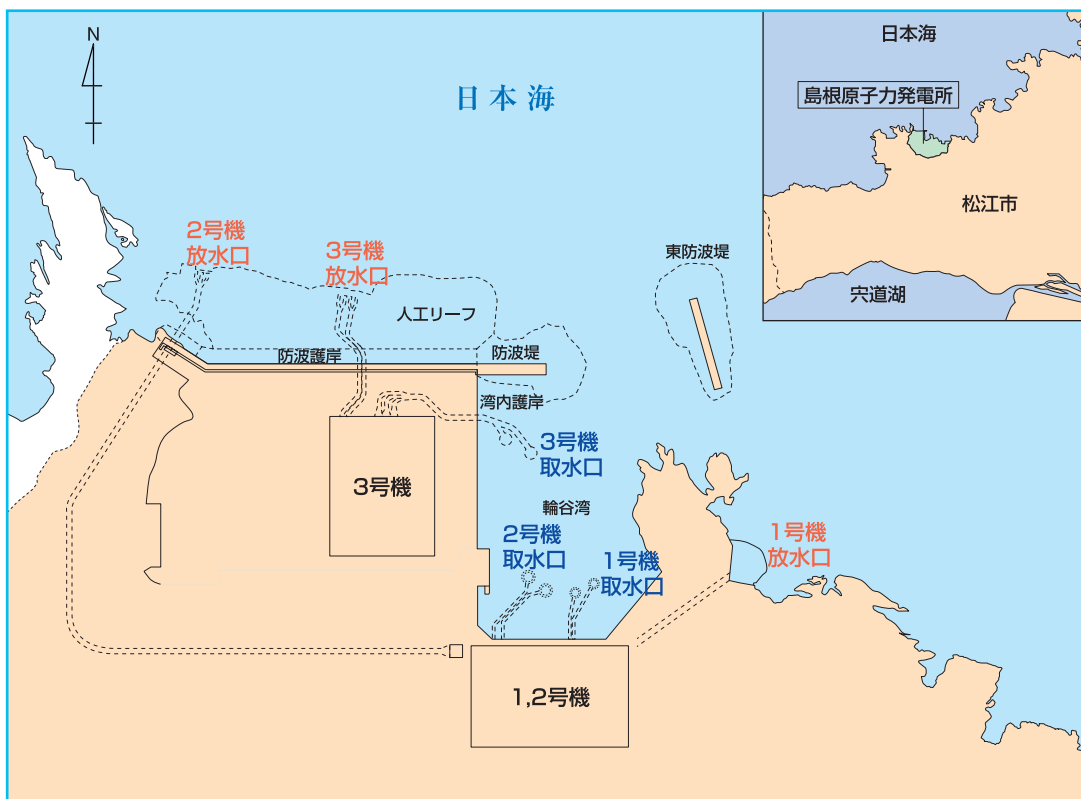
原子力発電所では、原子炉で熱せられた水が蒸気になってタービンを回し、電気を起こします。タービンを回し終わった蒸気は、右図のように復水器に送られ、その蒸気を冷却して水に戻すために海水が使われています。

冷却用の海水は、復水器を通るときに約6～10℃上昇し、海へ放出されますので、一般に「温排水」と呼ばれています。

海水は復水器の管の中を流るだけなので、温度は上がりますが、放射性物質を含んだ水(冷却水)とは混ざりません。



島根原子力発電所の放水口・取水口位置



冷却水(海水)の取放水量

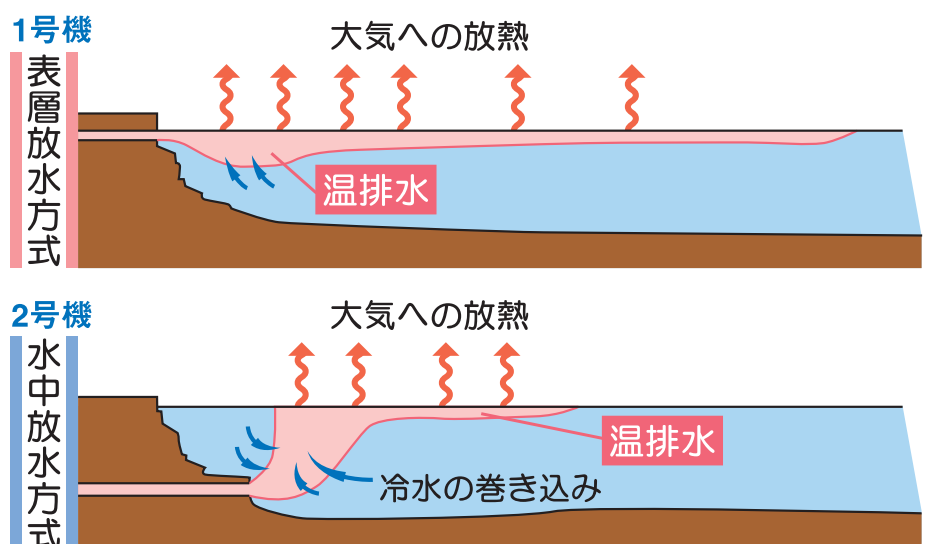
号機	取放水量
1号機	約30t/秒
2号機	約60t/秒
3号機	約95t/秒 (運転開始後)

温排水の放水方式

3号機増設に伴い、平成18年5月に2号機の放水口が移設されています。

移設に伴い、放水方式も従来の表層放水から水中放水方式(水深-15m)に変更され、放水地点も沿岸から約100m沖合いの地点に変更されています。

※水中放水方式は、表層放水方式と比べて平面的な拡がりは狭くなり、温排水の影響が出にくくなるとされています。



3号機も水中放水方式を採用します。